

# NTN 株式会社 桑名製作所

# 陸上競技部 ニュース

平成24年 1月16日 第222号

## 第56回 全日本実業団対抗駅伝競技大会特集

### ワウエル選手が41年ぶりの区間賞獲得 若手の健闘が光り13位でゴール!

2012年元旦、穏やかな新春を迎えた上州路で第56回全日本実業団駅伝が開催された。予選を勝ち抜いた37チームが駅伝日本一を目指し熾烈な戦いを展開した。8位入賞を目標に掲げたNTN陸上競技部は1区を21位と出遅れるが2区ワウエル選手が区間賞の走りで上位争いに引き戻す。しかし、その後は順位を落とし10位前後でのレースとなり懸命に8位入賞を目指す5区終了時では14位となり8位入賞に厳しい状況。そんな状況の中、6区山下(洸)選手、7区大久保選手が好走し順位を一つ上げ昨年の順位を守る13位でゴール。今大会はエース北岡選手を欠き苦しい戦いが予想される中、新たな戦力を発見し、NTN新記録を達成した収穫のある大会となった。

2012年新しい年の幕開けと共に駅伝王者を決めるべく、37チームの選手が9時10分に群馬県庁前をスタート。NTNは1区の笹沼選手が21位の中継となり出遅れてしまうが、2区のワウエル選手が18人を抜き3位まで順位を上げる区間賞の走りで上位争いを展開。3区大西選手は11位に順位を落とすが8位とは30秒差とまだ入賞圏内でタスキを繋ぐ。4区キャプテンの梅枝選手は前半からハイペースで進め8位集団に追い付くが、終盤に脚が痙攣し12位で中継する。11位争いをする5区飛坂選手であったが後半失速し14位でタスキ中継。その後順位を落とすかと思われたが、6区山下選手、7区大久保選手が踏ん張り、13位でゴール。エース北岡選手を欠く中、昨年と同順位であったがチーム新記録を達成するなどチームの底上げを感じた大会となった。

(成績)

順位	チーム名	記録	
1位	日清食品グループ	4時間49分32秒	大会新
2位	コニカミノルタ	4時間50分52秒	大会新
3位	旭化成	4時間51分16秒	大会新
4位	トヨタ自動車	4時間51分33秒	大会新
5位	九電工	4時間52分49秒	
6位	安川電機	4時間53分26秒	
7位	トヨタ自動車九州	4時間53分54秒	
8位	H o n d a	4時間54分13秒	
13位	N T N	4時間56分29秒	NTN新

(中部ブロックその他チームの成績)

- ・11位 トヨタ紡織 4時間56分05秒
- ・14位 愛知製鋼 4時間56分32秒
- ・28位 八千代工業 4時間59分28秒
- ・31位 愛産工業 5時間02分21秒

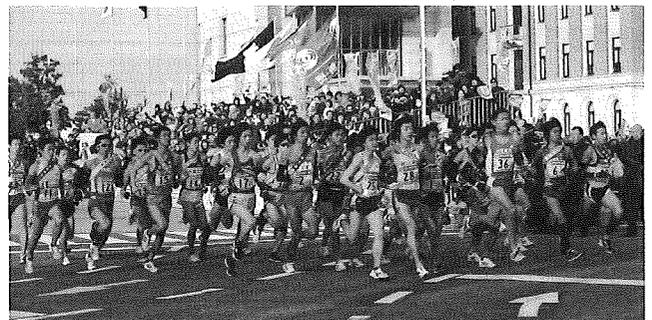
(NTN選手の成績)

区	距離	選手名	記録	通過順位	区間順位
1区	12.3km	笹沼 悠司	36:17	21位	21位
2区	8.3km	E・ワウエル	22:29	3位	1位
3区	13.7km	大西 毅彦	40:11	11位	25位
4区	22.3km	梅枝 裕吉	1:05:07	12位	16位
5区	15.9km	飛坂 篤恭	48:01	14位	24位
6区	11.8km	山下 洸	37:27	12位	13位
7区	15.7km	大久保幹也	46:57	13位	19位

### 1区(12.3km)群馬県庁～高崎市役所

#### 後半に精彩を欠いた笹沼選手

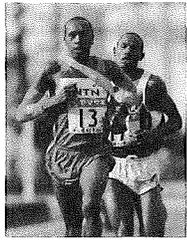
NTNは過去に中部実業団駅伝の1区で区間賞を獲得した事のある笹沼選手を起用。序盤は超が着くほどのスロウペースとなり5kmを15分22秒で通過しレースは進む。10kmを過ぎても30人以上の大集団の中、笹沼選手は集団の中ほどで勝負の機会をうかがった。ラスト3kmを切ると若松選手(日清食品グループ)、松本選手(トヨタ自動車)らが徐々にペースアップ。ラストスパートに定評のある笹沼選手であったがこの日は後半の伸びを欠き、トップから21秒遅れの区間21位でのタスキリレーとなった。



駅伝日本一を目指し37チームの選手がスタートをきる。

## 2区 (8.3km) 高崎市役所～公田町

### 41年ぶりの区間賞をもたらしたワウエル選手



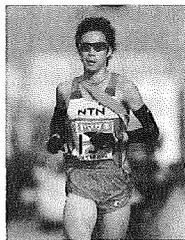
区間賞の走りでは18人抜きを演じたワウエル選手

外国人選手が唯一走ることが出来るインターナショナル区間。来日2年目のワウエル選手が快挙を達成する。先頭から21秒差でタスキを受けたワウエル選手はスタートから他を寄せ付けない圧巻の走りを見せる。5kmを13分25秒で通過すると6kmまでに15人を抜き6位まで順位を上げる。その後、さらにペースを上げ3人を抜き3位まで順位を押し上げたワウエル選手は見事区間賞を獲得。NTNの区間賞は第16回大会4区の三浦信由選手以来41年ぶりであった。

## 3区 (13.7km) 公田町～伊勢崎市役所

### 大西選手11位に後退するも粘りの走り

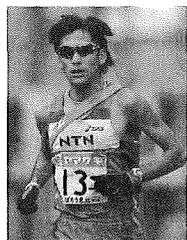
日本のトップランナーが多く集まった3区で大西選手が苦戦を強いられた。3位でタスキを受け取ったものの入賞ラインの8位までは約20秒差とまだまだ順位の変動はあるタイム差。スタートしてすぐに今季10000mで日本ランキング1,2位の宇賀地選手(コニカミノルタ)、宮脇選手(トヨタ自動車)らがハイペースで大西選手に襲い掛かる。懸命に抵抗する大西選手であったが力の差は如何ともしがたく順位を落とす。その後も順位を落とした大西選手であったが終盤は粘りの走りを見せ中継点では8位と27秒差でタスキを繋いだ。



順位は落としたが粘りの走りを見せた大西選手

## 4区 (22.3km) 伊勢崎市役所～太田市役所

### 8位入賞に果敢に挑んだ梅枝選手



キャプテンとしてチームをまとめた梅枝選手

最長の区間を任されたのはキャプテンの梅枝選手。過去、最長区間を請負った北岡選手の調子が戻らない中での起用となった。22kmの長丁場であっても梅枝選手のレーススタイルは変わらず5kmを14分13秒で走り抜け8位集団に追い付く。そのまま入賞争いを展開するかと思われたが、中盤に脚が痙攣しペースが上がらず集団から遅れだす。懸命に走る梅枝選手であったが順位を一つ落とし12位で中継。8位との差は1分まで広がった。

## 5区 (15.9km) 太田市役所～桐生市役所

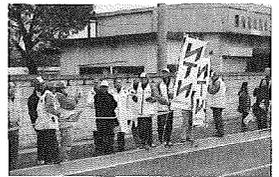
### 飛坂選手、追い上げ出来ず

距離も全体で2番目に長くアップダウン続く難コースに飛坂選手が初めて挑んだ。飛坂選手は糟谷選手(トヨタ紡織)と併走し前の集団を追いかけた。しかし前との差は詰まらず、中盤で富士通、三菱重工長崎に追い付かれてしまう。その後、暫く集団でレースを進めた飛坂選手であったが10km過ぎに遅れだす苦しい



糟谷選手と競り合う飛坂選手

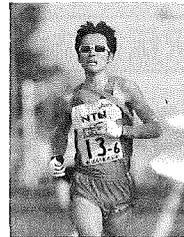
走りとなり14位で中継。8位との差は2分20秒と更に広がり、この区間からの追い上げ次第では入賞争いに期待が持てたが厳しい状況となってしまった。



選手を待ちわびる応援団

## 6区 (11.8km) 桐生市役所～西久保町

### ルーキー山下(洸)選手の好走光る



2チームを抜く好走を見せた山下(洸)選手

予選の中部大会では結果を残せなかったルーキーの山下選手であったがこの日は見事な好走を見せる。タスキを受け取ると快調なペースで12位トヨタ紡織、13位三菱重工長崎を追いかけた。中盤で2チームを交わし、勢いに乗る山下選手は更に加速する。終盤もしっかりと走りきった山下選手は11位YKKとの差を32秒差まで詰めレースの流れを変える走りでアンカー大久保選手にタスキを繋いだ。

## 7区 (15.7km) 西久保町～群馬県庁

### 大久保選手 冷静な走りで13位のフィニッシュ

最終区間を任されたのは高卒3年目の大久保選手。近年、最終区まで接戦になることから7区にも各チーム有力な選手が集まる中、ニューイヤーズ初出場となった大久保選手が冷静な走りを見せる。スタートから快調なペースで走る大久保選手は中間点でYKKを抜き11位に順位を上げる。しかし後方からトヨタ紡織、スバル、愛知製鋼の集団に追い付かれてしまう。「一度、集団で休む為に追い付かせた」と冷静な対応で勝負所に備えた。しかし、トヨタ紡織とスバルの選手のペースアップには対応できず愛知製鋼との13位争いに備えた。昨年の順位を守りたい大久保選手は残り500mで懸命にスパートし粘る愛知製鋼を振り切り昨年と同着となる13位でゴールした。



最後の競り合いを制し13位でゴールする大久保選手

今大会を振り返ると目標の8位入賞には届かなかったが、2区ワウエル選手の区間賞獲得や、これまでの課題であった6区、7区で若手が活躍し、順位を上げられた事はチーム力の向上を確認出来た大会であった。8位入賞に向け来年に期待したい。



応援団との記念撮影

応援ありがとうございました